

ごあいさつ



大垣市長

小川 敏

伝統ある「田口福寿杯 中日西濃駅伝競走大会」が、今年も多数のご参加のもと、盛大に開催されますことをお喜び申し上げますとともに、県内外からここ大垣市にお越しいただきました選手・関係者の皆様を、心より歓迎申し上げます。

本市は「水の都」と呼ばれるとおり、豊富な水資源を生かして発展してきた産業都市であると同時に、江戸時代には俳人・松尾芭蕉が「奥の細道」の旅を終えた「むすびの地」としても知られる、歴史と文化の薫り高いまちでもあります。ぜひこの機会に、本市の歴史や文化、風土に触れ、大垣の魅力を感じていただければ幸いです。

さて、本大会は、全国トップクラスの競技チームから愛好家や職場の同僚などで結成したチームまで広く参加できる、中部地区最大規模の大衆駅伝でございます。駅伝を通じた仲間づくり、絆づくりを目的に、愛好家や企業、学生など、毎回たいへん多くの方が参加され、大いに盛り上がり、まちも賑わいを見せ、たいへん嬉しく思っております。

今回のキャッチフレーズは“想いをつなぐ、熱いRUN”です。出場される選手の皆様には、それぞれのチームの想いが詰まったタスキを、「福寿草」のような決して諦めない心と粘り強い走りをつなぎ、熱いレースを繰り広げていただきたいと思います。また、選手同士の交流も深められ、思い出多き大会になることを願っております。

最後になりましたが、開催にあたりご尽力いただきました大垣市陸上競技協会、中日新聞社をはじめ、関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、本大会のご成功を祈念申し上げ、あいさつといたします。



海津市長

松永 清彦

西濃に春の訪れを告げる「田口福寿杯 中日西濃駅伝競走大会」が今年も県内はもとより、中部各県より多数の選手の皆様をお迎えし盛大に開催されますことを心から歓迎いたします。

さて、関係各位のご尽力により今年で39回目を迎える本大会は、年を経るごとに盛大に開催され、参加チームが200を超える、大衆駅伝大会としては中部地区最大規模に成長しました。

26キロにわたってコースとして設定されております海津市内には、のどかな田園風景や木曾三川に囲まれた広大な自然が広がっています。ぜひこの自然を肌で感じていただき、参加選手の皆様への活力となれば幸いです。

また、本大会は毎年250余名の市民の皆様が交通誘導ボランティアとして大会の運営をサポートしています。参加選手の皆様におかれましては、運営に携わるたくさんの方々のサポートがあってこの大会が成り立っており、感謝の気持ちでタスキをつないでいただきたいと思います。日頃の鍛錬の成果を遺憾なく発揮していただき、今大会が参加者相互の親睦を深めるよい思い出となりますことを心から願っております。

最後に、本大会の開催にご尽力賜りました関係各位に心から感謝申し上げますとともに、本大会のご成功をご祈念申し上げ、ごあいさつといたします。



輪之内町長

木野 隆之

平成30年の新春を迎え、「第39回田口福寿杯中日西濃駅伝競走大会」が盛大に開催されますことにお喜びを申し上げます。

昭和55年に創設されてから、39回目を迎えた中日西濃駅伝大会が、今や中部地区最大規模の大衆駅伝として地域に根付き、幅広い年代の方々に愛されていることは、誠に嬉しいかぎりであります。

岐阜県では、今年度より県民の誰もがレクリエーションにふれ合うことを目的として、「ぎふ清流レクリエーションフェスティバル」が開催されることとなりました。この輪之内町でも、協賛イベントとして、10月に綱引き大会を実施しましたが、参加された方々の力強い団結力が感じられました。

選手の皆様には、日頃の練習の成果を思う存分発揮され、沿道の人々に元気を与える力走を期待しています。今大会も、テーマである「想いをつなぐ 熱いRUN!!」のとおり、大垣市、海津市、輪之内町を駆け抜けてタスキをつなぎ、チームの絆を一層深められることを祈念いたします。

私も、参加される皆様の熱気を直に受けながら「一般B」のスタートのピストルを鳴らすことを心待ちにしています。

結びになりますが、本大会の開催にご尽力いただいた関係者、ボランティアの皆さまのご協力に心から感謝申し上げるとともに、大会の成功をお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。

ごあいさつ



中日新聞社 社長

大島 宇一郎

田口福寿杯中日西濃駅伝競走大会が今年も岐阜県の西美濃地方を舞台に盛大に開催されます。東海3県を中心に多くの皆さまにご参加いただくことを、主催者の一員として大変うれしく思います。

本大会は、地域スポーツの発展と振興という趣旨のもと設立され、今回が39回目になりました。大垣市浅中公園陸上競技場を発着点とし、海津市、輪之内町を周回するコースになっています。

昨今では施設内完結型のリレー競技が各地で開催され、公道を使った駅伝競技は大変少なくなっています。今大会は40回近くを数える歴史の中で市民に人気定着。今では貴重な街中を駆け抜ける大衆駅伝に成長してまいりました。

出場される選手の皆さまには、日ごろの練習の成果を遺憾なく発揮し、掛斐川と長良川に囲まれたのどかな田園風景を堪能していただきたいと思います。また沿道の皆さまには選手たちに温かいご声援をお願いいたします。

中日新聞社も、新聞紙面を通してランナーの力走や沿道の盛り上がりを発信し、大会のさらなる発展に貢献していきたいと思います。

最後になりましたが、開催にあたり格別のご協力をいただいております大垣警察署、海津警察署、協賛をいただきました田口福寿会、西濃運輸株式会社をはじめとする関係各位に心から感謝申し上げ、ごあいさついたします。



大垣市陸上競技協会 会長

金森 武

田口福寿杯 中日西濃駅伝競走大会は第39回目を迎えることになりました。1980年（昭和55年）に大垣市総合体育館の完成を記念して行われることになりました本大会ですが、関係の皆さまの大変なご努力により今では西濃地方になくてはならない大会に成長しました。

また、回を重ねるごとに参加チームが増え盛況をきわめてきましたが、道路競技には競技運営上の制約がありますので、出場チーム数に上限を設け、スタート時間やコース等の変更を繰り返しながら安全確保に努めてきました。

しかし、タスキをつなごうとする選手の皆さまのひたむきさを応援する気持ちに変わりはありませんので、中継所における繰上げスタート時間は今までどおり先頭ランナー通過後30分といたします。

今年も愛知県、三重県、岐阜県を始めとする各地から、大垣市、海津市、輪之内町にお越しいただけますことは、地元には大きな活力が生まれますので、主催者の一員として大変うれしく思います。どうかご参加の皆さまも日頃きたえられた力を十二分に発揮して、楽しい一日になることを願っております。

最後に、本大会を開催するにあたりご支援、ご協力をいただきました関係各位に心よりお礼申しあげ、ごあいさついたします。